

九条北小学校 校長室だより

NO.19 令和5年7月19日



今年は、久しぶりに「茨住吉神社の例祭」に、児童たちが子ども神輿や亀甲太鼓、獅子舞、御幣輿に参加することになりました。新型コロナの影響で、できなかったことが復活してきたのだと実感しています。

★ 代表児童が「1学期がんばったこと」を発表してくれました！ ★

本日の1学期終業式は、最近の暑さを考慮し、Teamsで多目的室と各教室を結んで実施しました。終業式のへ中では、各学級の代表児童が「1学期がんばったこと」を発表してくれました。どの児童も、緊張しながらも、しっかりとした様子で発表していました。



★ 茨住吉神社の「焼け楠」 ～平和について考える～ ★

「茨住吉神社」といえば・・・教員時代に中学生を連れて平和学習のフィールドワークに訪れた経験があります。その際に、神社の方にはお世話になり、感謝しています。

「焼け楠」とは、茨住吉神社の境内の本殿の東側にある楠のことです。戦前(昭和初期)で樹齢約700年と言われている程大きなものであったようですが、大阪大空襲により幹の大半が焼けてしまったそうです。しかし、焼けたままの姿でも御神木として今なお保存され、そばに小さな社が造られて信仰されています。階段がそばにあって大きさや悲惨さはわかりにくいですが、空襲の恐ろしさを訴えています。

茨住吉神社は、江戸初期の寛文元年(1624)に九条島の土地が開発されたのを、代官の香西哲雲と開発者の池山新兵衛が船舶の安全と新田の繁栄を願って住吉の四神を勧請したのが始まりだそうです。この神社の由緒記には、この付近が少し高くなっており、そこに楠あり、その傍に祀られていた小さな祠がこの神社の始めではないかと書かれているとか。江戸後期の浮世絵の「浪花百景」シリーズにはこの神社があるほど有名でしたが、昭和20年(1945)3月13～14日の大阪大空襲で、神輿庫一棟を残し、ことごとく焼失したとのことです。氏子もほとんど空襲で焼け出されてしまいその後は大変だったようです。

現在の社殿は昭和40年(1965)、鳥居などは昭和46年(1971)に完成。神社名は、灘の住吉神社即ち摂津菟原郡(うばら)の住吉神社から分社されたので「うばら」から「いばら」になったという説と、神社の出来た頃周囲に「いばら」が多かったという説があるそうです。

